

学問への弾圧許すな 滋賀・近江八幡 市民と野党が集い

2



滋賀県の「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民の会しが」や「安倍9条改憲NO！市民アクション・滋賀」などは28日、近江八幡（おうみはちまん）市で「菅政権は学問に手を突っ込むな！ 学術会議会員を直ちに任命せよ！ 市民と野党のつどい」を開きました。

「市民の会しが」の斎藤敏康代表が主催者あいさつ。「市民連合」呼びかけ人で法政大学教授の山口二郎氏が「菅ファッショとの闘いから政権交代に」と題して講演しました。

山口氏は「学問の弾圧というのは全体主義の入り口」だと指摘。「ぜひ、みなさんの力で次の総選挙でしっかり結果を出していただいて、政権交代の大きなうねりを、この滋賀県から起こしていただきたい」と述べました。

日本共産党、立憲民主党、社民党、新社会党の各代表があいさつ。日本共産党の石黒良治県委員長は「菅政権を解散・総選挙に追い込んで新しい政治を切り開こう」と訴え、佐藤こうへい衆院滋賀3区候補が決意を述べました。

大学関係者を代表して立命館大学教授の倉田玲氏がアピール。嘉田由紀子参院議員のメッセージが紹介され、滋賀1区から4区の「市民の会」代表が活動を報告しました。

しんぶん赤旗 電子版 2020年11月29日【政治総合】